

日本万引防止システム協会

(略称JEAS)

名称 : 日本万引防止システム協会

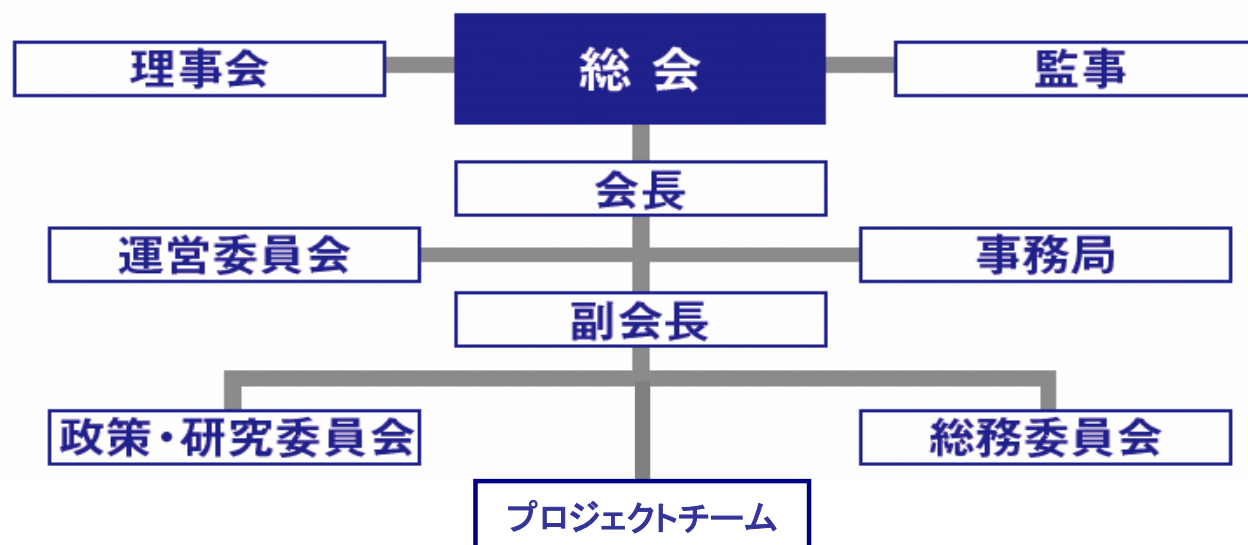
設立 : 平成14年6月

会長 : 山村 秀彦 (高千穂交易(株)・会長)

会員 : 正会員24社、協賛会員1社、特別会員4団体 平成23年11月末現在

事業 : 万引犯罪防止システムの普及推進

組織 :



1. ソースタギング準備委員会
2. 技術基準委員会

協会設立と主旨

「日本EAS機器協議会（略称JEAS）」設立：平成14年6月
「日本万引防止システム協会（略称JEASを継承）」に変更：平成23年6月

万引防止システムを製造、販売、サポートする企業の業界団体です。

1. 小売業界の健全な経営視点

- ①万引きロス防止による収益向上のサポート
- ②犯罪が起きにくい売場の提供のサポート

2. 社会貢献の視点

- ① 青少年の健全育成
- ② 地域社会全体での取り組み
- ③ 業界全体での取り組み

3. 消費者の視点

- ① 万引きロスをお客様が負担している状況からの改善
- ② 安全・安心・快適な売場づくり



会報

※ EASの目的と黎明期



一般に商品管理装置や万引防止機と呼ばれるEASとは、感知ラベルやハードタグを装着した商品をレジで精算せずに通過したときにアラームを鳴らして商品の不正持ち出しを防止する機器のことです。
※EASはElectronic Article Surveillance（電子式商品・物品監視）の略語です。

EAS導入目的は次の3つです。

1. 万引犯罪の未然防止・・・初発型犯罪の抑止効果
2. 万引犯罪の再犯防止・・・累犯化の抑止効果
3. 万引犯罪の集積防止・・・不正情報発生を抑止効果

EASは米国において昭和41年に開発され、日本では昭和48年より販売を開始しました。当初は「お客様は神様、お客様を疑うなんて・・・」と売れない時代が長く続きました。その後、音楽CDやゲームソフトの登場、セルフ販売の定着化や商業施設の大型化により、EASの必要性は高まってきております。

JEAS活動報告

■ 調査・研究の実績

- 「万引防止対策・都道府県実態調査」報告書（平成16年9月）
- 「万引に関する10の誤解」制作（平成17年3月）
- 「万引き防止機器ハンドブック」制作（平成17年6月、平成20年6月）
- 「EAS機器の市場規模に関する調査」報告書（毎年調査）
- 「EAS機器の実態調査」報告書（平成18年6月、平成20年6月）
- 「ソースタギングに関する意識調査」報告書（平成21年6月）

■ ご講演（一部）

万引防止のセミナーを開催し各界の代表者や専門家のご講演をいただいております。

日本小売業協会界会長 土方 清様（平成23年6月）

警視庁生活安全部長 山下 史雄様(現総理大臣秘書官)（平成22年6月）

防犯理論のご専門 立正大学文学部社会学科教授 小宮 信夫様（平成21年6月）

電波技術のご専門 情報通信研究機構 工学博士渡辺 聡一様（平成21年11月）

■ ご協力

東京都、警視庁等の関係機関をはじめ、各小売業団体の万引防止活動にご協力させていただいております。NPO法人 全国万引犯罪防止機構の支援を機構の発足時から致しております。

安全・安心な機器のご提供

平成14年より、ペースメーカー等医療機器装着者の皆様、一般のお買い物のお客さまに安心してお買い物をいただくために、EAS機器とペースメーカーとの電波干渉テストの実施ならびに「EASステッカー」をEAS機器に貼付しております。

本年11月末の累計配布枚数156,690枚です。



EASステッカー

配布先 / EAS機器利用者(導入施設)
配布開始 / 2002年12月1日
提出場所 / EAS機器本体、
および店舗の正面入口ドア等

安全・安心なEASを設置しています。

ペースメーカー、ICD装着の方は
ゲート付近に留まったり
寄りかかったりせず
安心してお通りください。

日本万引防止システム協会

EASPOP

配布開始 / 2007年7月
提出場所 / 店舗の正面入口、
EAS設置近辺等

機器を正しくご利用いただく活動

1. 保守契約の推進

万引防止システム保守契約のお勧め 日本万引防止システム協会

万引防止システムをお使いいただきありがとうございます。日本万引防止システム協会の加入会員企業ではその製品の品質・機能において万全を期して設置・導入を進めております。しかし、どのようなシステムでも、さまざまな環境の変化がシステムに影響をもち、業務やサービスに支障を来すことも考えられます。そこで、万引防止システムが常に正常な状態で稼働するよう、日本万引防止システム協会では加入各社が用意する『万引防止システム保守契約』をお勧めしています。保守契約の内容は各社にお問い合わせいただき、まずは保守サービスの内容が契約書締結によって明確になっているかをご確認ください。

保守契約のメリット その1

お客様にお使いいただいている万引防止システムが確実に万引防止の機能を発揮させるために、契約による定期点検を行うことによって、必要な防犯機能を損なうことなく、常にシステムを最適な状態でお使い頂くことができます。事前の予防を行うことで予定外の対応を防ぐことができます。

保守契約のメリット その2

保守を定額の期間経費として計上することで、予定外の支出をその都度申請する必要がなくなります。システム導入後の無償保証期間は1年となっていることが一般的ですが、無償保証期間が終了した後はその都度修理内容に応じて料金が変動し、非常に高価になることもあります。


保守契約のメリット その3

契約書として明文化されていない保守は確実に実行される保証はありません。目先の受注を目的として「長期の無償保守」をうたっているケースも考えられます。口約束によるあいまいさを排除して、保守内容の詳細をしっかりとした契約書に交わすことで、保守サービスを提供する企業もそれに足りうる保守体制をとることができます。

2. 設置基準の整備（例）

固定基準（ドア型）

- 壁面の素材が石膏ボードなど弱い場合は予め裏面に板や鉄板で補強を施す必要がある。
- 不測の衝突など十分な強度計算を行った上、4点以上の固定を行う。
- また、場所によってはTハンガーを使うと効果的である。



JEAS 日本万引防止システム協会 72
All rights reserved

3. JEAS講習会の実施



4. セキュリティショー展示



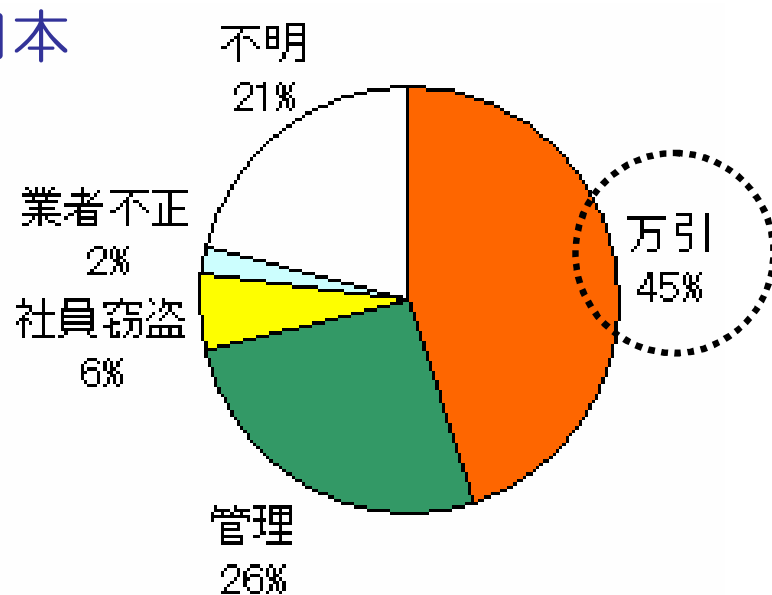
不明ロスの日米調査データ

■ 2010年度 全国小売業不明ロス調査の日米比較

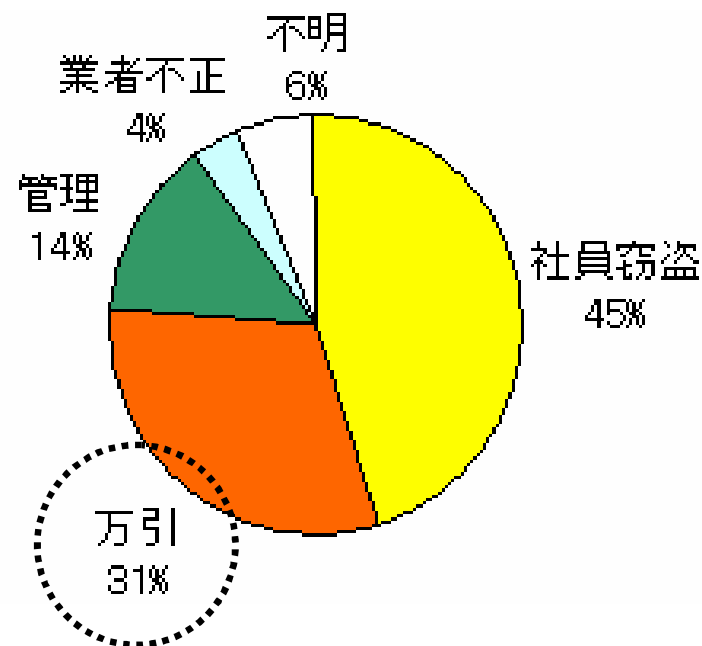
対象	調査機関	企業数	EAS導入率	不明ロス率（前年）	不明ロス内訳				
					万引	管理	社員窃盗	業者不正	不明
日本	万犯機構	253社	38.7%	0.65% (0.42%)	45%	26%	6%	2%	21%
米国	フロリダ大学	138社	58.1%	1.49% (1.44%)	31%	14%	45%	4%	6%

■ 不明ロスの内訳

日本



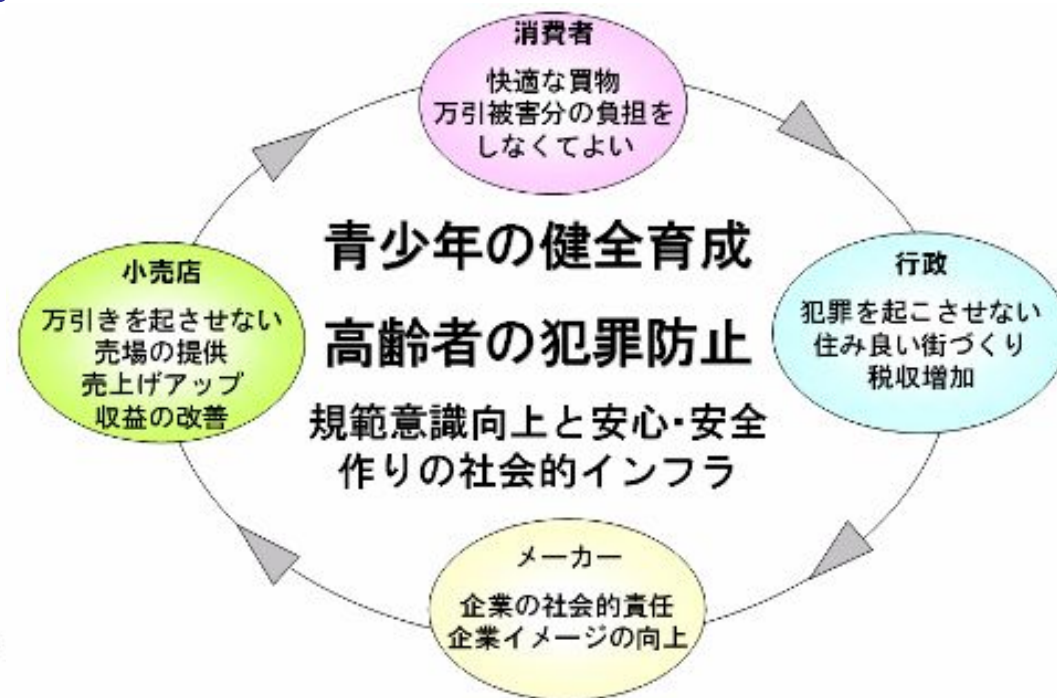
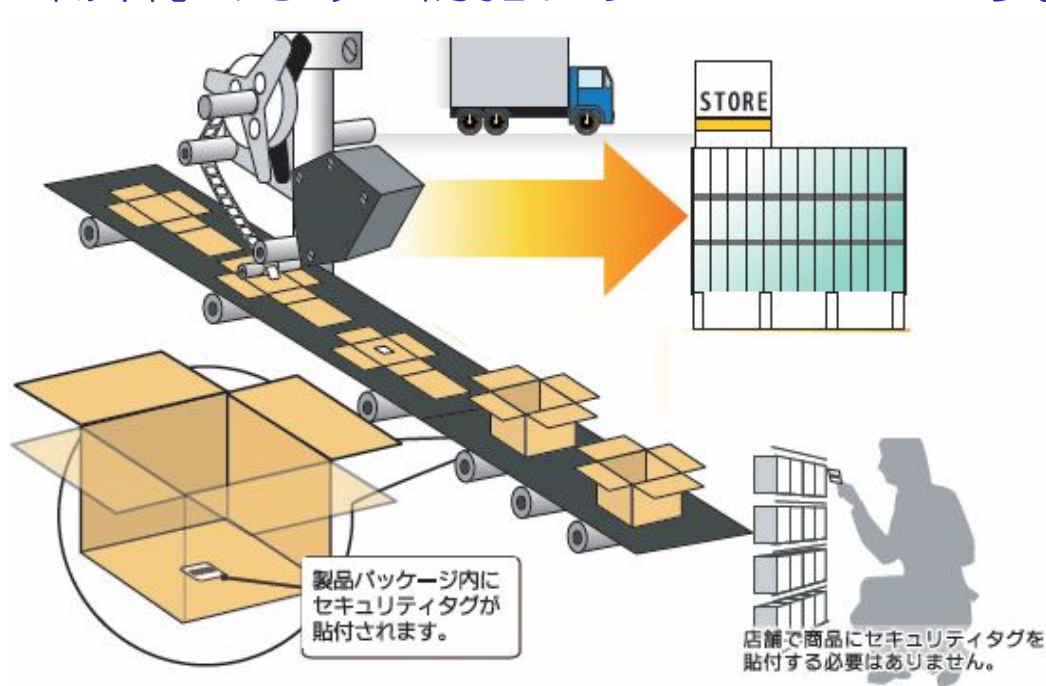
米国



日本では万引対策を主に総務の防犯部門が担当し、商品管理は業務部門が担当されています。米国では損失予防を重要な経営戦略と位置付け、ロスプリベンション部が全体を統括しています。

社会の防犯インフラとしての ソースタギング

「ソースタギング」とは、セキュリティタグ（感知ラベルやハードタグ）を商品の製造や梱包、または物流段階で商品に装填・内蔵することです。セキュリティタグの装着は時間的にもコスト的にも負担が増大しています。ソースタギングは、万引防止とオープン陳列による売上の増加に貢献するとともに、消費者の快適なショッピング環境を作り出すプログラムであり、万引犯罪を起こさせない社会を作る流通業界総ぐるみの防犯ソリューションです。



ご清聴ありがとうございました。